

【教務部】		
	内 容	評 価
重点目標	(1) 授業外学習（放課後・長期休業中の補習等）をさらに充実させる。 (2) 授業の質・量の確保を図るとともに、各教科で本校における授業改善・生徒の学力向上に取り組む。 (3) 少人数指導・習熟度別授業を生かし、個に応じた学力の伸長を図る。 (4) 学校外の学修（資格取得など）への取り組みを推奨する。 (5) 3修制（3年間での卒業）を推奨する。 (6) 学力向上研究校として基礎学力が不十分な生徒への支援を行う。（「校内寺子屋」事業に取り組む） (7) 通信制課程との連携を今後も進めて行く。 (8) 教務部内の仕事の組織化とOJTを推進する。 (9) 礼を正すという意味で、授業の始まりと終わりの挨拶をきちんと行う。 (10) 教務部内の業務の効率化や会議等の時間短縮などライフワークバランスに配慮した働き方改革を推進するように努める。 (11) オンライン学習・遠隔教育などを考察し、ICTを活用した学習を推進して行く。 (12) 在京外国人生徒等に向けた授業等の対応を整備していく。	
具体策	(1) 増学級に向けて、教科主任会・教育課程委員会で検討を進め、教育課程を確定する。（自由選択科目・学校設定科目の確定、設置曜日も含める） (2) 教科主任会・教科会を定例開催し、情報と課題を共有して授業改善に取り組む。長期休業中の講習の枠組みなど、組織化を図っていく。 (3) 観点別評価による年間授業計画及び週案を各教科で円滑に進められるようにする。 (4) 各教科との連携を通して、学校全体で基礎学力の向上から応用力をつけることの充実を図る。発展的な学習に取り組んでいける生徒、時間をかけ基礎力から取り組んでいる生徒双方に、個に応じた指導を行い、学力の向上を図る。 (5) 通信制との連携を図り卒業できる環境を考察し、履修規定等について検討考察を行う。 (6) 会議等の効率化・スリム化を図り、授業準備時間を確保し、授業改善に取り組むための環境を整備して行く。 (7) 各授業で授業の目的・到達度目標を生徒に明示し、学習に集中して取り組む動機づけとする。また、資格試験への挑戦も促していく。 (8) 生徒の学習意欲向上のためのICTの活用を図る。（使い易い環境の整備を進める） (9) 国際部や担任、教科等と連携しながら在京外国人生徒等に向けた授業等の環境を整えていく。	
数値目標	(1) 卒業年次生の卒業率95%以上（4月1日付卒業年次生138名：131名以上）（昨年：4月卒業年次生126名、卒業者120名：95.2%） (2) 中途退学率3%以下（10名以下）（4月9日在籍472名の2.2%→10名）（昨年：4月7日在籍者442名、退学者21名 4.8%） (3) 転学・転籍者数 10名以下（2.2%以下） （昨年 転籍者 5名、転学者15名 計20名 4.5%） (4) 長期休業中の補習・講習の開講講座数45以上（昨年：51講座、一昨年78講座） (5) 学校外における資格取得（技能審査）70件以上（昨年95件） (6) 生徒による授業評価 生徒の授業に対する肯定的評価90%以上 (7) 年間成績優秀者25名以上 (8) 年間出席不良者20名以下、年間皆勤10名以上	A
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標については、ほぼ達成することができた。 ICTの活用については、IT推進委員会を中心に進んでいる。 学力向上における寺子屋事業については、順調に実施された。 	
目標達成に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 退学者については、今後増加する可能性はあるが、年度末には昨年度より抑えたい。 寺子屋事業については「学力向上推進校」事業となるが、引き続き生徒の出席率が維持できるように努めていきたい。 通信制課程との交流を進めて行くように努める。 	
対 応 策	<ul style="list-style-type: none"> 現状を踏まえてできるところからしっかり対応していく。 部内での報告、連絡、相談が円滑に進められるように努める。 管理職及び各分掌等とできる限り連絡や相談をして円滑に進められるように努めて行く。 	

【生徒指導部】		
内 容		評 価
重点目標	(1) 規範意識やマナーを体得した生徒の育成 (2) 生徒の自主的な活動の活性化（生徒会、部活動・文化祭・スポーツ大会の充実等） (3) いじめ・体罰のない安全・安心な学校	
具 体 策	(1) 1. 生徒に規範意識やマナーを体得する目的を理解させ、対話を通じながら、生徒を指導する。 2. 全教職員が生徒指導に関わりやすくなるような体制や方法を整備する。 3. 生徒の自立を促し、規範意識を繰り返し意識させ、特別指導の未然防止を図る。 4. 無断遅刻・欠席指導を行う。自らの生活を振り返りながら、自己管理できるよう指導する。 (2) 1. 学校行事や学校生活において委員会・部活動を積極的に活用し、生徒が活躍する場を増加させる。 2. 生徒会において、生徒が主体的に活動できるようにする。 (3) 1. 指導や支援の情報を蓄積し共有できる方法を整備する。 2. 自転車通学時のヘルメット着用を必須とし、事故防止を心がけさせる。	
数値目標	(1) 特別指導件数年間7件以下 (2) 行事（スポーツ大会・文化祭）への参加者満足度80%以上 (3) 部活動入部加入率50%以上	A
成 果	1 規範意識やマナーを体得した生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪等の身だしなみ検査は、定期的に年次・担任と連携し、丁寧な指導を行った。生徒との対話を重視しながら指導してきたので、現在は、ほぼ全員の生徒が規範意識をもち、生活している。 ・特別指導 スマホの借用・課金：1件、1名／性的嫌がらせ行為：1件、1名／不正行為：1件、1名／喫煙：2件、3名 合計5件、6名であった。情報があるとすぐに生徒指導部や担任で、巡回や聞き取りを行ったため、早期に対応することができた。 ・生徒指導部規定や特別指導日誌・マニュアル等は、改訂したものを来年度から実施する予定である。 2 生徒の自主的な活動の活性化（生徒会、部活動・文化祭・スポーツ大会の充実等） <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果によると、スポーツ大会は90.0%（昨年95.1%）、文化祭は96.0%（昨年92.7%）が肯定的（よかった、まあよかった）な回答で、90%以上の満足度であった。 ・生徒会活動としては、7月に生徒会主催の学校行事を実施するとともに、臨時生徒総会での校則改訂を実現した。11月には生徒会役員選挙が行われ、第2期の生徒会が発足した。今後は、「校則の見直し」などについても取り組んでいく予定である。 ・学校や周囲に対して貢献した生徒を校長賞として表彰した（1学期：スポーツ大会委員長など計2名、2学期：文化祭代表生徒、第1期生徒会長など5名）。 	

	<p>【部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置部数：運動部 11 文化部 12 同好会 5 ・部活動実績（年間）：卓球部、陸上競技部、棋道部、柔道同好会が全国大会に出場。 ・部活動加入率は、R5年度 48.1% R6年度 52.9% R7年度 57.0%（男子 142名、女子 128名、計 270名）である（同好会含む）。 ・10月、11月、12月の学校説明会実施時に、ダンス部、軟式野球部、バスケットボール部などが活動を行い、学校PRに貢献した。また、運動部の生徒を中心としてボランティアを募り、グラウンドの美化活動を3回実施した。 <p>3 いじめ・体罰のない安全・安心な学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月下旬、2年次女子生徒1名が、関係生徒5～6名から距離を置かれたり、LINEグループから外される等の事案が発生し、生徒指導部・年次間の情報共有を速やかに行うとともに、関係生徒からの聞き取りも速やかに行った。6月上旬、校内の「いじめ対策委員会」で本事案を「いじめ」と認定後、生徒指導部・年次で連携・協力し、関係生徒への指導を速やかに行うとともに、被害生徒保護者・関係生徒保護者への報告・連絡・相談を迅速に行うことで、双方の保護者の理解を得ることができた。その後、年次や進路指導部等と連携・協力した進路実現に向けた相談体制の充実、大学生サポーターやスクールカウンセラーとの面談の設定等、被害生徒・保護者に寄り添った対応を行った。 <p>【自転車通学時のヘルメット着用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から、ヘルメット着用が義務付けとなっている。三部統一した登校時間の日を中心に校門等でヘルメット着用指導を行った。自転車通学者（1年次 58名、2年次 47名、3年次 6名 12月末）
<p>目標達成に向けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と対話しながら活動を進めることに重きをおき、行事や委員会など時間をかけて取り組んだ。結果として、生徒自身も積極的に行事や委員会に取り組み、自分たちもやればできると自己肯定感が高まった。また、生徒会は第2期に入り、生徒自身で考え、主体的に活動できるようになり、今後も生徒会主体の様々な活動が期待される。部活動では、運動部を中心として、学校説明会時の学校PRやグラウンドの美化活動などを積極的に行った。来年度は、部活動加入率の向上をはじめ、部活動の更なる活性化が期待される。
<p>対応策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした校則等の見直し ・砂川SNSルール検討 ・頭髪染色指導の徹底 <ul style="list-style-type: none"> →事前申請のある生徒について、年度当初等に情報を共有。一回染色した生徒は、記録を取り、生徒指導部と年次で情報共有し、その後の指導につなげていく。対応が難しい生徒は生徒指導部・年次で情報共有し、連携して対応に当たっていく。始業式・終業式などの式典前の年次・生徒指導部が連携した確認体制の強化。総合・LHR時などの際の年次・生徒指導部が連携した確認体制の確立 ・装身具指導の徹底 <ul style="list-style-type: none"> →ピアスの預かり指導等 ・ネクタイ・リボン着用の徹底 <ul style="list-style-type: none"> →統一的な指導、学校全体の場で指導を行う機会の設定 ・統一的な遅刻指導体制の構築

	<p>→年次・生徒指導部による対象生徒の情報共有。複数回指導対象生徒に対する生徒指導部・管理職等による指導等</p> <p>・特別指導の見える化</p> <p>→体系的な指導体制の確立。内容を確認する共有フォルダの作成。指導日誌等の確認体制の確立。過去の特別指導の内容の共有</p> <p>・ヘルメット着用の徹底</p> <p>→動画・ポスター作成、呼び掛け、立ち番等</p> <p>・部活動の活性化</p> <p>→掲示板、ホワイトボード、Instagram などを利用した部活動の様子の発信</p>
--	---

【進路指導部】	
---------	--

	内 容	評 価
--	-----	-----

重点目標	<p>(1) 生徒一人一人への支援と自立意識の啓発</p> <p>(2) 砂川高校のキャリア教育の充実</p> <p>(3) 地元企業との連携</p> <p>(4) 上級学校との連携</p>	
------	---	--

具 体 策	<p>●生徒一人一人の個に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>●進路実現を確実にするため、早期からの取り組みと個別対応に重点を置く。</p> <p>●以下の各項目への取り組みを行う。</p> <p>(1) キャリア教育指導体制の確立 砂川高校のキャリア教育の計画の策定および推進</p> <p>(2) 1年次初期の学習習慣の確立と進路意識の啓発指導 家庭等における学習習慣の確立</p> <p>(3) 年次への適切な進路情報の提供と進学・就職ガイダンスの充実</p> <p>①外部研究会・説明会への積極的な参加</p> <p>②総合型選抜、学校推薦型選抜に対応した面接・小論文指導の充実</p> <p>(4) キャリアガイダンスの充実</p> <p>①3年間を通じた系統的な進路活動の実現</p> <p>②グループによる体験的な学習活動等により、意欲と社会的基礎的能力を育成</p> <p>③生活に関する基礎的な理解と適切な職業理解・職業観の育成</p> <p>④東京都の「企業・NPO等と連携した『社会的・職業的自立』支援事業」の活用</p> <p>⑤進路未決定者に対するYSW・NPO法人育て上げネットと連携した指導の充実</p> <p>(5) 地元企業との連携 多摩ブルー・グリーンクラブを中心とした地元優良企業との連携 特定非営利活動法人育て上げネットとパートナーシップ協定締結</p> <p>(6) 上級学校との連携</p> <p>①上級学校による出前授業・夏期講習・短大フェアの実施</p> <p>②高大連携している上級学校との連携教育</p> <p>③長期休業中等に専門学校見学会の実施</p>	
-------	--	--

数値目標	<p>進路未決定者（大学・短大・専門進学及び就職以外の生徒）の割合10%以下におさめる。（参考：令和6年度5% 令和5年度4.5% 令和4年度15.6%）</p> <p>※3月9日現在で進路未決定者の割合は8%</p>	A
------	---	---

成 果	<p>(1) 今年度のキャリアサポーターの面談利用者数は106名（昨年度105名）であった。</p> <p>(2) オープンキャンパス・企業見学ツアー、分野別説明会等を実施し、進路選択のミスマッチを防ぐための学びの場の提供をした。</p> <p>(3) 地元企業8社と連携し、就職希望者対象にインターンシップ・DEXITを活用した職場見学を実施し、生徒14名が参加した。</p> <p>(4) 専門学校等と連携した出前授業を3回実施、夏季休業中に3年次の学校推薦型・総合型・就職を希望する生徒への面接練習会を大学・専門学校等と共同開催した。また、チャレンジプログラムを推進し、参加者は16名（昨年度4名）であった。</p>	
-----	---	--

目標達成に向けての課題	<p>(1) 入試の早期化傾向を踏まえた年度当初からの進路意識の醸成と自立意識の啓発。</p> <p>(2) キャリア教育のブラッシュアップ。</p> <p>(3) 就職希望者への機会拡充と、地元企業との継続的な連携事業の確立。</p> <p>(4) 高大連携のさらなる発展。</p>
対応策	<p>(1) 早い時期からの相談で進路決定が期待できるため、キャリアサポーター制度については年度当初において全年次で生徒への紹介や保護者会での紹介を実施し、生徒と保護者への周知を徹底していく。</p> <p>(2) 分野別説明会の年1回化、オープンキャンパス・企業見学ツアーの2学年合同実施の是非を検証し、行事の振り返りの機会の導入や3年の面接練習・志望理由書指導の再検討を行っていく。</p> <p>(3) DEXIT を利用したインターンシップを通年で設定し、体験機会の拡充により進路選択のミスマッチを抑制していきたい。</p> <p>(4) 出前授業・学生交流会・教員訪問を定期的実施し、上級学校との連携を継続・拡充していく。</p>

【総務部】		
内 容		評 価
重点目標	<p>(1) 生徒募集対策の質向上</p> <p>(2) 校内募集対策行事（体験授業、学校説明会、個別相談会）における生徒の活躍の促進</p> <p>(3) 定常的な業務の効率化</p>	
具体策	<p>(1) 1. 募集対策行事の参加者増</p> <p>2. 新入生アンケートの分析を通じた発信の精度向上 (リーチすべき層に最適な方法で情報を届ける)</p> <p>3. III部の魅力を発信する。</p> <p>4. 公式ウェブサイトおよびXで視覚的に分かりやすく、訴求力のある情報発信を行う。</p> <p>(2) 1. 年次担任との連携を強化し、在校生の募集の幅を広げる。</p> <p>2. 行事に参加した生徒の主体性を引き出す工夫を行う。</p> <p>(3) 1. 風通しの良い組織風土を維持し、業務の進捗を全員で共有する。</p> <p>2. ICTを活用し、各業務の負担軽減を図る。</p>	
数値目標	<p>・入選倍率 1.20倍 前期1.10倍 後期1.10倍 在京1.2倍 (前年度 0.98倍 前期1.08倍 後期0.88倍 在京1.2倍)</p> <p>➡今年度：1.17倍 前期1.22倍、後期 0.97倍、在京 1.1倍</p> <p>※全体倍率は、応募数に対する出願者数により計上（最終応募倍率）</p> <p>・ホームページアクセス数：年間400,000件以上（前年度380,944件）</p> <p>➡今年度：552,206件（2026年3月26日時点）</p> <p>・校内募集対策行事参加者数：1,200名以上（前年度1,155名）</p> <p>➡今年度：810組（組数での参加数に変更）</p>	A

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・全体入選倍率の目標は達成しなかったが、前期入試における目標倍率を達成できた。後期倍率も昨年度に比べ、微増となった。西部地区における入試倍率全体の低さ、昼夜間定時制の中での入試倍率を鑑みると、募集対策に力をいれたことに対する成果は得られたと考える。 ・年間ホームページアクセス数は、一昨年から10万アクセス更新した昨年度に比べて、さらに10万アクセス更新することができた。 ・ホームページの更新回数が向上した。昨年度462回に対して、1000回（R8.3/27 時点）と大幅に更新した。 ・広報委員会を指揮し、校内における募集活動において、生徒主体となる学校見学会、生徒懇談ブースの運営や中学生に向けての声掛けなどを積極的に行った。また、生徒会と連携し、生徒の目線に立った学校紹介を実施した。 ・説明会において校歌紹介、部活動見学を活発にできるように部活動顧問に働きかけ、学校の活発な活動を積極的に発信した。
目 標 達 成 向 け て の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、ホームページの更新を強化する。特に年次や分掌、部活動等と連携し、HPの記事が一辺倒にならないように、様々な方面からの校内活動の発信を活発化していくことが求められる。 ・学校説明会などにおける感想から、生徒が主体となって活動している様子や、相談内容に対する丁寧な対応が中学生とその保護者に対して高評価であった。来年度も生徒を活躍させる募集対策が必要と考える。 ・引き続き業務の効率化および情報の密な共有を図り、効果的な分掌運営が行われるようにする。
対 応 策	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsのチャット機能を活用した、HPやInstagramなどに投稿するための原稿提出を簡単に行える体制作りを維持する。 ・広報委員の効果的な運用と、生徒会との連携。校歌紹介や部活動見学・部活動体験など、学校の活発な様子を発信していけるよう、生活指導部や部活動顧問などとの連携を行う。 ・学校説明会などにおける本校の特徴を明確化し、他の昼夜間定時制やチャレンジスクールなどとの違いを明確にするなど、中学生に向けて本校の魅力を分かりやすく伝えるための工夫が必要である。 ・Teamsやファイルサーバを用いて情報を共有するとともに、分掌会議の場で担当業務の現状などを随時お互いに報告し、分掌全体で目標達成に向けた効率的な業務を行う。

【保健相談部】	
内 容	評 価
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 外部専門家（SC・YSW・学校精神科医・特別支援教育心理士）と連携した支援体制を強化することにより、不登校・中途退学の未然防止に努める。 (2) 特別な支援や配慮を必要とする生徒の学習面や進路面での支援を学校全体で行う。 (3) 生徒の心身の健康の保持増進を図る。

<p>具 体 策</p>	<p>(1) コンディションレポートの活用や生徒情報の共有により、支援が必要な生徒を早期発見し、対応していく。</p> <p>(2) 外部専門家（SC・YSW・学校精神科医・特別支援教育心理士）と連携して、対応策を検討する。</p> <p>(3) 外部機関（子供家庭支援センター・児童相談所・警察・医療機関等）との連携を図り、組織的に対応する。</p> <p>(4) 外部専門家を活用し、生徒理解を深めるための教員研修や生徒向け講座を実施する。</p> <p>(5) 特別な支援が必要な生徒については、エリアネットワークや外部機関（医療機関、障害福祉課、保健師、就労移行支援事業所等）と連携し、支援していく。また、外部専門家や支援員と連携を図りながら、通級による指導を行う。さらに、年次・自立支援チーム・進路指導部と連携を図りながら進路指導を行う。コミュニケーションアシスト講座の積極的な活用を推進する。</p> <p>(6) 定期健康診断の適正な実施、日常の保健指導、保健だよりの発行、総合的な学習を利用した健康教育の実施により、生徒自身が心身の健康を管理できる能力を育成する。</p>	
<p>数値目標</p>	<p>(1) 教育相談・特別支援教育に関する委員会の開催数（4回以上）</p> <p>(2) 出席率年間平均（90%以上）</p> <p>(3) 進路未決定での退学者数（5名未満）</p>	<p>A</p>
<p>成 果</p>	<p>(1) 数値目標を達成した。</p> <p>(2) SC・YSW を効果的に活用することができた（SC・YSW ともに面談件数 200 件以上）</p> <p>(3) 個別ケース会議を多く取り入れ、教育相談委員会の活性化を図ることができた。</p> <p>(4) 令和 8 年度開講「通級による指導」に向けて校内体制を整えることができた。</p> <p>(5) 特別支援教育心理士による巡回相談や都立版エリアネットワークを活用し、生徒理解を深めるための教員研修を実施した。</p> <p>(6) SC・学校精神科医・外部機関（市役所・保健所等）と連携し、「SOS の出し方に関する教育」を充実させることができた。</p> <p>(7) 外部人材を活用し、健康教育の充実を図ることができた。</p>	
<p>目 標 達 成 に 向 け て の 課 題</p>	<p>(1) 進路未決定での退学者数ゼロ</p> <p>(2) 不登校生徒へのアプローチ</p> <p>(3) 校内組織間での連携</p> <p>(4) 支援者間での連携と学校への円滑な情報共有</p>	
<p>対 応 策</p>	<p>(1) 隔週での支援会議の開催</p> <p>(2) 不登校生徒に対する支援体制づくり</p> <p>(3) 定期的な情報共有の仕組みづくり</p> <p>(4) 情報共有システムの構築</p>	

【国際部】		
	内 容	評 価
<p>重点目標</p>	<p>(1) 日本語が必要な生徒に日本語指導をし、教科学習を含め、学校生活が円滑に行えるようにする。</p> <p>(2) 外国ルーツの生徒の持つさまざまな課題を理解し、支援する。卒業後の進路や自立にむけて、アイデンティティの確立、さまざまな体験の場を設けるなど、主体的に自分の将来を考えられるようにする。</p> <p>(3) 「東京都ダイバーシティ推進指定校」として、多文化理解事業を行い、相手を尊重する態度を醸成し、多文化共生への行動ができるようにする。</p>	

<p>具 体 策</p>	<p><多文化共生教育></p> <p>(1) 1年次「総合」で多文化理解・共生のプログラムを行う。</p> <p>(2) 1年次文化祭などで多文化についての発表を行う。</p> <p>(3) 11月 都教委事業：ネパール研修旅行を実施する。(日本人3名+在京3名)</p> <p>(4) 文化交流の部活動を立ち上げ、在京生の活躍の場をつくる。</p> <p>(5) 教職員研修を年2～3回行う。</p>	
<p>数値目標</p>	<p>(1) 在京生の履修率85%以上、単位修得率80%以上</p> <p>(2) 在京生の学校満足度80%以上</p>	<p>A</p>
<p>成 果</p>	<p>1. 日本語を母語としない生徒の日本語教育の充実</p> <p>1年次生は「特別の教育課程」として各生徒の習得状況にあわせてきめこまかい日本語指導を行う。</p> <p>2. 教科学習の支援</p> <p>各科目の教科書、教材、テスト等のルビふりや翻訳。「都立AI」の活用</p> <p>3. ダイバーシティ推進校「ネパール派遣研修」報告会</p> <p>(1) 校内報告会 12月17日(水) 13:00～13:40</p> <p>(2) 都立高校TIPSフォーラム12月26日(金) 有明GYM=EX</p> <p>(3) 多文化共生推進プラン検討会議 1月13日(火)</p> <p>(4) 育てあげネット 3月13日(金)</p> <p>(5) 令和7年度ダイバーシティ推進校 海外派遣研修成果報告会 2月8日(日) 東京都教職員研修センター</p> <p>(6) 立川市日本語支援つばさなど 2月4日(水) 他</p> <p>4. 国際理解・国際協力講座</p> <p>(1) 「やさしい日本語講座」 5月8日 吉開章/井上くみ子</p> <p>(2) 「ネパール現地校とのオンライン交流」「ハリー杉山氏の講演」 7月11日</p> <p>(3) 1年次総合文化祭「世界大紹介プロジェクト」多文化紹介表</p> <p>(4) 「ネパール料理講習会」10月2日</p> <p>(5) 「紛争について」(全校生徒向き)</p> <p>講演 NPO 法人パレスチナ子どものキャンペーン (CCP)</p> <p>(6) 「JET マッシュー先生中米バルバトスの料理」2月6日</p> <p>5. 教職員向け研修会</p> <p>(1) 第1回「やさしい日本語講座」4月4日 吉開章/井上</p> <p>(2) 第2回:12月5日 「外国人雇用と日本語教育」内定ブリッジ株式会社 社長 浅海一郎</p> <p>(3) 第3回:3月上旬 「在留資格について」 法務省東京出入国在留管理局 外国人在留支援センター (FRESC) フレスク</p> <p>(4) 日本語授業公開&研究協議(日本語+多文化共生事業)</p> <p>11月20日(木) 参加者35名、(都内高校6、他府県高校4、大学関係3、市・教育委員会3、市社協・支援団体など17他)</p> <p>6月の授業公開週間にもにほんご授業公開を行う。</p>	

	<p>■受け入れの工夫と生徒の様子</p> <p>(1) 在京ランチ（毎週木曜日）で、生徒交流や相談にのる体制をつくり、安心感を持つことができた。</p> <p>(2) 相互交流、相互理解の場をつくり、日本人の友だちをたくさん作る仕掛けを作った。</p> <p>(3) 在京生徒が活躍できる場をたくさん作り、自信や自己肯定感につなげた。</p> <p>(4) きめ細かい日本語指導により、少しずつ上達し、自信をつけている。表情も明るくなっていて、現在、全員が元気に通学してきている。</p> <p>(5) ネパール派遣の報告会を地域で何回も行い、地域連携の形を模索していた。</p> <p>(1) 在京生の履修率 100% （目標85%以上）</p> <p>(2) 単位修得率 99% （目標80%以上）</p> <p>(3) 在京生の学校満足度 90%以上 （目標80%以上）</p> <p>■今後の課題</p> <p>(1) 日本語で会話することができても、「教科学習は大変難しい。」教科の内容理解と日本語学習をいかに学ぶか大きな課題である。現在「都立 AI」の活用を始め、効果的な学習に役立てる。</p> <p>(2) 多文化の理解だけでなく、世界の紛争や戦争、平和の構築、開発など世界で起きていることに関心をよせるプログラムを行い、「多文化共生について」も積極的に発信していきたい。</p> <p>(3) 将来について自ら開拓し自己決定がらうよう、在京生の困難や長所を理解できる進路プログラムを作成していく。（特に学費（奨学金）などについては、大変困難がある。）</p> <p>(4) 在京生の進路開拓について、大学・専門学校に問い合わせ等して、進路先を確保していきたい。また、育てあげネットとも連携し、在京生向きの特別入試の大学・専門学校の一覧を作成したい。</p>
--	---

【1年次】		
	内 容	評 価
重点目標	<p>(1) 多様性を尊重した生活の中で広い視野を持つとともに、教養と確かな学力を身につける。</p> <p>(2) ダイバーシティ社会の実現に向け、自分の身近なところから社会問題について問題意識を持つ。</p> <p>(3) 部活動や地域貢献活動に積極的に参加し、社会性と協力共生の精神を養う。</p> <p>(4) 自身の進路や将来像について具体的に考え、社会人としての礎を築く。</p> <p>(5) 自ら考え、判断し、行動する自主性と自律の精神を養う。</p>	

<p>具 体 策</p>	<p>(1) HR活動や各行事において、生命尊重、互いの人権尊重、環境への配慮について考えさせる指導を行う。</p> <p>(2) 生徒と信頼関係を築き、生徒の良いところを見つけて褒め、励まし、自己肯定感を高める。</p> <p>(3) 個々の生徒の課題を見つけ、必要に応じて関係組織と連携を取りながら、課題解決に向けた方法・手段を構築していく。</p> <p>(4) 保護者との連絡を密にし、信頼関係を築き、協力して生徒の指導にあたる。</p> <p>(5) 基本的な生活習慣を確立させる。具体的には以下の指導を徹底する。</p> <p>①時間を守り、遅刻をしない。→遅刻指導・</p> <p>②身だしなみを整え、制服を正しく着用する習慣を身に付ける。→身だしなみ指導</p> <p>③気持ちよく挨拶をする。→挨拶指導</p> <p>④チャイムと同時に授業が開始できるよう、気持ちを切り替え授業に向かう姿勢を徹底する。→授業態度指導</p> <p>⑤ゴミの分別、掃除、私物の整理・整頓等を励行する。→生活習慣指導</p> <p>(6) 在京生の存在を活用し、多様な人・文化・価値観に触れる中で他者と共生する力と広い視野を養う。</p>	
<p>数値目標</p>	<p>(1) 成績優秀者 20名以上</p> <p>(2) 年間特別指導件数 5件以下</p> <p>(3) 出席不良者 15名以下、皆勤学期 15名以上</p>	<p>B</p>
<p>成 果</p>	<p>(1) 成績優秀者 26名 評定平均 4.8以上 12名</p> <p>(2) 年間特別指導件数 6件</p> <p>(3) 出席不良者 43名、年間皆勤 6名</p> <p>(4) 在京生の良好な出席状況・学習取り組み・学校満足度</p>	
<p>目 標 達 成 に 向 け て の 課 題</p>	<p>(1) 成績不振者に対する個別指導</p> <p>(2) 遅刻指導の徹底</p> <p>(3) 特別指導防止の取り組み</p>	
<p>対 応 策</p>	<p>・二者面談・三者面談を頻繁に行い、総合的な探究の時間や夏期講習等も活用しながら、進路意識の醸成を図る。早めの対策に加え、来年度中に三者面談を行い、本人・保護者の意識すり合わせも適切に行う。</p> <p>・LHRや総合的な探究の時間・行事等のクラス・年次単位での活動の機会を利用し、グループワーク等を増やし、部を超えた人間関係の構築、現在構築している人間関係を深めさせる。</p> <p>・出席不良者に対し、引き続き担任との個人面談や保護者への連絡等を密に行い、SC・YSWとの面談も実施しながら、減少を図る。</p>	

【2年次】		
内 容		評 価
重点目標	(1) 自立した大人になるために、知識・技能を深め、思考力・判断力・表現力を培う。 (2) 基礎学力の着実な定着を図り、学習習慣の確立と学習意欲の向上を目指す。 (3) 将来の社会生活を意識し考えさせ、主体的に規範意識を身に付けさせる。 (4) 自己理解を深め、互いの個性を尊重し、他者を思いやる心を育むことで、確実なコミュニケーション能力を伸ばす。	
具体策	(1) 総合的な探究の時間等を活用し、自己の将来の生き方や進路について考えさせ、そのために必要な授業や家庭学習の大切さを各教科と連携し、粘り強く指導をしていく。 (2) 各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教員間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。 (3) 生徒が主体的に取り組む意欲をもって、自己実現に必要な能力を養うとともに、共に学び、活動することを通して存在感や自己実現の喜びの得られる機会として、ホームルーム活動や学校行事等を活用していく。	
数値目標	(1) 成績優秀者20名以上 (2) 年間特別指導件数5件以下 (3) 出席不良者15名以下、皆勤学期15名以上	A
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌とも連携し、総合的な探究の時間等を活用し、自己の将来を意識させることで、進路について考えを深めさせることができた。結果、出席状況や成績の向上、進路学習への取り組み意欲の高まりが年次全体で見られる。 ・総合的な探究の時間の中で、探究・グループワーク・発表等を通して、自立した大人になるための知識・技能を深め、思考力・判断力・表現力を養うことができた。 ・自己の進路への意識の高まりに伴い、学習意欲の向上と基礎学力の定着が見られ、成績の向上につながっている。結果、成績優秀者は24名であった。 ・将来の社会生活を常に意識させ、主体的に規範意識を身に付けさせるため、年次全体で粘り強く指導を行ってきた。結果として、頭髪や装飾品等の身だしなみや無段遅刻・欠席の減少が見られた。年間特別指導件数は0件であった。 ・ホームルーム活動や修学旅行、文化祭等の学校行事、委員会活動等を通して話し合い活動の活性化、協働する姿が見られるようになった。 	
目標達成に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・成績優秀者は数値目標を超えたが、次年度も継続・さらなる向上を目指して指導する。 ・年間特別指導件数は、0件となった。次年度は進路を意識させ、引き続き生活指導を継続し、特別指導0件を継続する。 ・出席不良者46名、皆勤者1名と数値目標に届かなかったが、卒業年次として進路を意識を向けさせ生活環境の改善を図れるよう指導していく。 	
対 応 策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様、分掌内で積極的な情報共有・意見交換をすることで、生活指導・進路指導につなげていく。そのために、報告、連絡、相談が円滑に進められるように努める。 ・各分掌とも密に連携し、情報共有や相談を行うとともに、管理職への連絡相談をして、円滑に進められるように努める。 	

【3年次】			
内 容			評 価
重点目標	(1) 生徒自身が自らの学習上の課題を正確に把握し、目標を立て、その達成に向かって努力し続ける意欲・態度を身に付けさせ、成績優秀者数の増加を目指す。 (2) 様々な課題に柔軟かつ適切に対応し、社会人、職業人として自立していくための未来を切り拓く力を育む。 (3) 特定の分野で活躍することや、自分の得意なことで力を発揮することを通して、自分の個性を認識し、これからの東京・日本を支える人材の育成を目指す。		
具 体 策	(1) 各教科や保健相談部（SC、YSW）と連携を密にし、各クラス担任が生徒一人一人の学校生活における課題を把握し、その解決に向けて面談や学校連絡サービスなどを通じて、生徒や保護者に指導・助言を図る。 (2) 自他の生命の尊重、規律ある生活など、将来、社会において生きていく上で求められる道徳的価値等に関する意識を深めるために、生徒指導部及び保護者と連携しながら指導・助言を図る。 (3) 進路指導部等を通じて、関係機関（大学・専門学校・企業）との連携を図りながら、高校卒業後の自己の在り方や生き方を意識させることを目的とした「総合的な探究の時間」や「LHR」、長期休業期間の時間の活用を実践する。		
数値目標	(1) 年間成績優秀者30名以上 (2) 年間精勤20名以上 (3) 進路決定率90%以上	成果	(1) B (2) B (3) A
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と協働し、進路学習を進め、生徒自らの意思で進路決定することができた。 ・保健相談部・SC・YSWと協働し、生徒が抱える様々な問題への対応に年度最後まで努めることができた。 ・スポーツ大会や文化祭等の学校行事に生徒が積極的に取り組むことができた。 		